

中学校・高等学校社会科系教科における言語景観の取り扱い

大平 晃久（長崎大学教育学部）

I はじめに

言語景観は、「道路標識，広告看板，地名表示，店名表示，官庁の標識などに含まれる可視的な言語の総体」と定義されている¹⁾。社会言語学を中心に，2000年代に入ってから研究がさかんになってきた²⁾。

教育に関わる領域からの言語景観の研究はそれほど多くない。それも日本語教育など第二言語教育の分野からのものがめだつ³⁾。中高の社会科系教育に関わる論考としては，管見の限り，高校地理の授業を念頭に横浜における多言語表示を紹介したもの⁴⁾，中学校地理分野におけるシンガポールと根室の多言語表示に関する授業実践報告⁵⁾，中高地理における景観写真を用いた指導の一環として大久保やドイツの多言語景観を取り上げるもの⁶⁾があるくらいである。

しかし，社会科系教育，特に地理においては，言語景観は以前からポピュラーな教材である。教科書にも言語景観を読み取らせる写真が多数掲載されてきた。

そうしたことから，本稿ではまず，現行の中学校・高等学校社会科系教科書においてどのような言語景観が取り上げられているか傾向を示す。そして，どのように近年になって変化があったか明らかにする。その上で，中高の社会科系教科・科目において，言語景観をいかに発展的に扱えるか，試論的に考察する。

II 教科書にみる言語景観の取り扱い

(1) 現行教科書に取り上げられた言語景観 現行の高校地理 A・B，中学校社会科の教科書⁷⁾において，言語景観がどのように取り上げられているかまとめたのが表 1・2 である。何が言語景観か判断が難しいものもあるが，例えば，デモのプラカードの英文を読み取らせるような場合は言語景観の写真とはみなさず，何種類の言語で記されているかといった視点があるものを言語景観の写真とみなした。また点字も除いた。表 1・2 には，言語景観をどのように読み取らせているか，次の①，②，③，④，⑤の 5 つに分類して示した。

① 文字の例示

② 複数の公用語，少数派の言語など，言語的多様性を読み取らせるもの

③ 新しい移民（外国人労働者など）による言語的多様性を読み取らせるもの

④ 国際観光客の増加を読み取らせるもの

⑤ 文化・経済的グローバル化を読み取らせるもの

①は漢字，ハングル，キリル文字を説明するもので，最も単純な言語景観の取り上げ方である。ただし，文字の説明に景観写真を用いる必要はないともいえる。

表 1 現行高校地理教科書における言語景観の取り扱い

片平博文ほか『詳説地理 B』帝国書院, 2015。	㉑	漢字・ハングル (225)
	㉒	スイス 4 言語 (独仏伊英) 看板 (208)
	㉓	ソウルの日本語看板 (240), メッカの多言語立入禁止看板 (260)
	㉔	アメリカのコカ・コーラ多言語幕 (196)
山本正三ほか『新編詳説地理 B』二宮書店, 2015。	㉑	ハングル (198)
	㉒	ロサンゼルス of チャイナタウン (279), サンパウロの日本人街 (285)
	㉔	サウジアラビアのマクドナルド (226), 中国のコカ・コーラ看板 (281)
金田章裕ほか『地理 B』東京書籍, 2015。	㉑	キリル文字 (291)
	㉒	シンガポールの複数言語新聞販売 (204), デリー郊外ショッピングモールの英語表示 (209), ケベックのフランス語看板 (319)
金田章裕ほか『地理 A』東京書籍, 2015。	㉑	キリル文字 (101)
	㉒	シンガポール 4 言語看板 (75)
	㉓	東京家電量販店の中国語 (27)
竹内裕一ほか『高等学校地理 A』清水書院, 2015。	㉑	漢字 (30)
	㉒	ニューヨークのチャイナタウン (口絵 12), スイス 4 言語看板 (29)
	㉔	アンゴラの中国企業看板 (62)
荒井良雄ほか『高等学校新地理 A』帝国書院, 2015。	㉑	ハングル (78)
	㉒	モントリオールフランス語看板 (63), トルファンアラビア文字表示 (68), サンパウロ日本人街 (135), メルボルン漢字 (マレー華人) 看板 (140)
	㉔	北京のスターバックス (74)
山本正三ほか『新編地理 A』二宮書店, 2015。	㉑	漢字・ハングルなど (68)
	㉒	バンコクのチャイナタウン (79), カナダヌナブト準州 4 言語看板 (英仏+アイヌクティクトゥット語+同 Inuinnaqtun 方言) (104)
	㉓	秋葉原電器店の中国語表示 (24)
朝野洋一ほか『高等学校地理 A 世界に目を向け, 地域を学ぶ』第一学習社, 2015。	㉒	カナダ 2 言語看板 (91), メルボルンギリシャ人街 (113)
	㉔	デュッセルドルフ日本人街 (76), 大泉ポルトガル語避難場所看板 (95)
	㉓	函館 6 言語 (日英露中 (簡体, 繁体) ハングル) トイレ看板 (133)
片平博文ほか『高校生の地理 A』帝国書院, 2015。	㉒	ウルムチのアラビア文字表示 (50), ニューヨークのチャイナタウン (106), カナダ 2 言語看板 (107), サンパウロ日本人街 (114)

また, 世界史 A・B で頻出する⁸⁾, ケマル・パシヤの文字革命の写真もこの一種であるといえなくもない。

㉑は表 1・2 をみてもわかるように, 中高の教科書ではおなじみの教材である。複数の公用語の存在を読み取らせるものとしては, カナダ, スイス, シンガポールが取り上げられている。カナダのヌナブト準州 (3 ないし 4 言語) が 2 冊の教科書で取り上げられているのはおもしろい。

複数公用語以外では, 移民オールドカマーの言語・文字が読める景観も数多く取り上げられている。最も多いのはチャイナタウンで, 表 1・2 に示したものの以外にも, 牌楼 (チャイナタウンの門) の方が目立つために言語景観の読み取りとはいいがたいものが何点かある。同じく事例の多いサンパウロの日本人街もほとんど鳥居だけの写真があり, それらは表に入れていない。なお, ドイツのトルコ人街の写真も高校地理 B の 2 社が取り上げているが⁹⁾, トルコ語とドイツ語を高校生は見分けられないために言語景観の読み取りは求められておらず, 表にも示していない。日本国内の事例として, 生野コリアタウンとアイヌ関係が取り上げられているが, それぞれ, 韓国・朝鮮語, アイヌ語が, 文字はカタカナなどで表

表 2 現行中学社会科教科書における言語景観の取り扱い

五味文彦ほか『新しい社会 地理』東京書籍, 2012。	㉑	スイス 4 言語看板 (59), カナダ 2 言語看板 (75), フロリダのスペイン語新聞・雑誌スタンド (81)
	㉒	サウジアラビアのマクドナルド・中国のウォルマート (39)
五味文彦ほか『新しい社会 公民』東京書籍, 2012。	㉓	中国・サウジアラビアのマクドナルド (163)
	㉔	漢字 (41)
金田章裕ほか『中学社会地理的分野』日本文教出版, 2012。	㉕	サンパウロ日本人街など (94), 生野コリアタウン (243)
	㉖	小牧ブラジルフェスタのポスター (291)
	㉗	稚内の日英露 3 言語道路標識 (192)
	㉘	北京・広州のケンタッキー・マクドナルド (45)
佐藤幸治ほか『中学社会公民的分野』日本文教出版, 2012。	㉙	サウジアラビアと中国のマクドナルド (14), タイの日本企業 (145), ラオスの日本支援で建設された橋 (196)
	㉚	漢字 (44), ハングル (110)
中村和郎ほか『社会科中学生の地理 日本の歩みと世界の動き』帝国書院, 2012。	㉛	クアラルンプールのチャイナタウン (46), ダカールの学校のフランス語看板・掲示 (72), ニューヨークのチャイナタウン (80), カナダ 2 言語看板 (88), サンパウロ日本語 (93), ベレン (ブラジル) のスーパー内「日本食」掲示 (98), 生野コリアタウンのハングル・「チョアヨ」 (195), 北海道アイヌ語由来地名標識など (250)
	㉜	大泉ポルトガル語併記の看板 (234)
	㉝	ヨーロッパ「寿司」看板 (67), アトランタのコカ・コーラ多言語幕 (83)
	㉞	
谷本美彦ほか『社会科中学生の公民 よりよい社会をめざして』帝国書院, 2014。	㉟	東京のごみ集積所の日英中ハングル (11)
	㊱	
竹内裕一ほか『中学社会地理 地域にまなぶ』教育出版, 2012。	㊲	ハングル・キリル文字など (新潟 5 言語の看板) (26)
	㊳	シドニーの漢字看板 (101), アイヌ語の地名看板 (247)
	㊴	大久保のハングル看板 (216)
	㊵	リヤドのマクドナルド (47)

地理的分野の教科書を刊行している 4 社について調査。また言語景観が取り上げられていない教科書 (各社の歴史的な分野など) は表にあげていない。

記されているという点で共通している。地理以外でこうした例をあえてあげるなら、中学歴史や高校日本史の教科書における、植民地や南方占領地での日本語授業の写真があるが¹⁰⁾、いずれも屋内の黒板の文字で、言語景観とは呼びがたい。

㉑が先住民や移民オールドカマーに関わる言語景観であるのに対して、外国人労働者のような移民ニューカマーや一時的居住者がつくる言語景観を㉒とした。言語景観の研究面では最も注目されている部分であろうが、中高社会科系教科書で取り上げた例は少ない。デュッセルドルフを含めていずれも日本がらみであることは、生徒の理解を考えると当然といえる。

㉔も日本においてインバウンド・ツーリズムの重要性が増す昨今、ますます注目される領域だが、教科書の言語景観の事例はそれほど多くない。教出版中学地理の新潟の 5 言語の言語景観もインバウンド・ツーリズムに該当しそうであるが、この教科書では単に様々な言語に関心を持たせるために取り上げられている。帝国版高校地理 B のソウルの日本語景観は逆にアウトバウンドの言語景観であり、またメッカのムスリム以外立入禁止看板は反ツーリズムの言語景観と称し得ようか。なお、上の㉑に分類したスイスの独仏伊英 4 言語の看板も、周辺 3 か国の主

要言語＋英語であり，ツーリスト向けという側面も大きいはずである。

最後の㊸は，言語（文字）があることで，文化・経済的グローバル化をより印象付けるもの。英語表記が共通語として世界各地にみられること自体がこれに該当するが，教科書でそうした取り上げ方はされていない。表 1・2 ではまず，例えばマクドナルドのロゴとアラビア文字・漢字などからなる写真を㊸に分類している。中学公民でも同様の事例が取り扱われるほか，高校現代社会や世界史 A でもやはり同様の例がある¹¹⁾。また，グローバル化はアメリカ化だけではなく，よりローカルな日本に着目するものもあるが，アンゴラの中国企業の看板の写真(清水版高校地理 A) は，近年の存在感を増す中国，特にそのアフリカへの進出を考えさせる興味深い素材といえよう。

(2) 近年の変化 このように，現行の中高社会科系教科書において，特に中高の地理教科書においては，言語景観が広く取り扱われていることを確認した。では，中高社会科系教科書における言語景観を取り上げ方はどう変化してきたのか。ここでは高校地理が大きく変化した 1989 年学習指導要領に基づく高校地理 A・B 教科書を主に取り上げて，現行教科書と比較する。1989 年学習指導要領下の 1994 年頃から用いられた地理 A・B 教科書のすべてについて，現行教科書と同様に，言語景観を読み取らせる写真をチェックした。紙幅の都合もあり，表にはせずに概要のみ示す。また，一部の中学校社会科や高校地歴・公民他科目の教科書についても触れる。

まず㊸は，ハングルと漢字のみであるが，現行教科書同様にみられる。

㊸は現行同様に数多い。チャイナタウンが目立つことも同様である。ただし，現行にはない横浜中華街を取り上げたものがある¹²⁾。現行教科書にはない事例として特に目立つのが，4 冊の教科書¹³⁾に取り上げられたベルギー 2 公用語の看板である。その他，現行教科書にある事例以外では，複数公用語の言語景観として，ラゴスの英語標識¹⁴⁾，マレーシア 4 言語（マレー語アラビア文字含む）5 表記¹⁵⁾，少数言語の景観として，ロサンゼルスのコリアタウン¹⁶⁾，フランスバスク地方¹⁷⁾が取り上げられている。

㊸，㊸に該当する例はない。㊸について，現行と同様にマクドナルドと現地文字という組合せはこの時期にも多い。興味深いのは，ローマ字入り住居表示看板を日本の国際化の表れとして取り上げるのが 3 例¹⁸⁾あること（いずれも「地域調査」单元）である。ゴミ分別も日英 2 語のみで国際化の一環に位置づけられている¹⁹⁾。同様に，日本の国際化としてスーパーのアメリカ産牛肉英語ディスプレイ²⁰⁾，時代を反映して，海外日本企業に関する言語景観が取り上げられている²¹⁾。

現行教科書（2012 年～）と上でみた 1994 年初版の教科書との間に位置する教科書をいくらか調べると，日本社会の変化を反映して，㊸の新しい移民，㊸の観光に関する言語景観も登場している。㊸では「国際化」として日中英 3 語の路上消火器や大泉のポルトガル語看板・掲示を取り上げるものがある²²⁾。なお，2011 年度大学入試センター試験地理 A・B 共通問題で，佐賀市の多言語ゴミ分別表示

が取り上げられた。④ではオーストラリアの日本語看板²³⁾、福岡県の鉄道車内の日本語・ハングル・英語、中国語（繁体字）の表示が取り上げられている²⁴⁾。

このように、1994年初版の高校地理教科書では、取り上げられる言語景観は現行教科書と比べると偏りがあり、新しい移民（◎）や国際観光客（④）は扱われていない。さらに、そもそも言語景観が全く扱われていない教科書が地理 B に 2 冊ある²⁵⁾。社会科系教科書において、言語景観はより幅広く、また量的にも多く扱われるようになってきたとみてよいだろう。

Ⅲ 言語景観の発展的取り扱いの可能性

(1) 中高における制約 中高社会科系教科における言語景観の扱いには制約が大きい。すなわち、高校生であっても、少しでも中身が推測できるのは、(日本語を除けば)英語と中国語程度である。文字は教科書にある程度出てくるが、キリル文字、ハングルやアラビア語を見分ける程度で、ラテン文字の場合には、英語に近い(ゲルマン系)か、そうでないかを推測させることぐらいしかできそうにない。簡体字と繁体字の見分けは教科書で扱われるわけではないが、おそらく中学生を含めて可能だろう。その他には、各種言語の表示順ぐらいであろうか。

そのような限界がある中で、前章でみたように、中高の社会科系教科書、特に地理教科書では、工夫して様々な言語景観が取り上げられている。以下では、中学校・高校、特に高校の地歴・公民において、言語景観を扱う授業をどのようにして、さらに発展的に展開できるか、地理 A・B や現代社会といった教科・科目の枠はあまり考えずに、試論的に考察したものである。3つのテーマ、すなわち、移民ニューカマー、国際観光客、言語的少数者・先住民族であるアイヌのそれぞれについてみていく。

(2) 移民ニューカマー まず、2枚の写真(図1・2)から始めたい。言語景観の考察にあたっては、メッセージの送り手と受け手を把握することが重要である²⁶⁾。これらがどういった目的で誰を対象としているか、それ自体が(例えば中学校レベルでは)大きな問いに



図1 ベトナム語のゴミ分別表示
長崎市内、2016年撮影。



図2 4言語による案内標識
長崎市内、2018年撮影。

なるだろう。いうまでもなく、図1のゴミの分別を呼びかける掲示は、定住する日本語を理解できない外国人、すなわち移民ニューカマー向けであり、図2の4言語の標識は主として外国人を含む観光客向けである。これらを別の対策が必要な課題としてとらえること（生徒にとらえさせること）がまず必要である。

図1について補足するならば、長崎市内には造船関係の企業で働く外国人技能実習生が多く、この掲示はそのことを反映している。長崎市に住んでいてもこうしたベトナム語のゴミ分別掲示はなかなか目にするものでなく、正直いって、筆者も最初に目にした時は驚いた。

さて、移民ニューカマーを考えるためにもう一つ、図3を示したい。これはよくあるカレー屋に見えるが、店名の「ガウレ」はネパール語で「コミュニティ」を意味する。近年、ネパール人留学生の増加がよく報じられているが、この店も元々留学生として来日したネパール人が経営するレストランである。

この図1・3の2枚の写真に示された言語景観からは、日本に多様な移民ニューカマーがいるということがよくわかる。それだけでなく、我々にとって身近なところに彼らがいること、彼らもまた日本のそれぞれの地域の生活者であることが、インパクトをもって伝わるだろう。

なお、この2つの言語景観について、メッセージの送り手と受け手は、図1が、ホスト社会→言語的少数者、図3が、言語的少数者→ホスト社会となる。移民ニューカマーの言語景観といっても両者は全く異なる。

図3のようなエスニックレストランでは、チャイナタウンに典型的にみられるように、商業的にアピールするためにエスニックなシンボルとして言語、文字が使用されることが多い。ただし、この「ガウレ」はネパール人としてのアイデンティティの主張でもある。こうしたことにも気づかせたい。さらに、移民ニューカマー関連の言語景観として、災害時の避難所の看板を



図3 インド料理店の外観

福岡市内。出典：「開店ポータル」
<https://kaiten-portal.jp/media/fukuoka/restaurant/>（2019年1月23日検索）。



図4 「やさしい日本語」による
避難場所標識

弘前市内。出典：弘前大学人文学部社会言語学研究室減災のための「やさしい日本語」研究会『「やさしい日本語」が外国人被災者の命を救います』弘前大学人文学部社会言語学研究室減災のための「やさしい日本語」研究会，2016年。

図 4 に示した。避難所は多くの場合、国籍を問わず住民向けであり、移民ニューカマーももちろん対象である。通常の避難所の看板は日英の 2 言語表示がほとんどであるが、移民ニューカマーのほとんどが英語はあまりできないという調査がある²⁷⁾。図 4 はそのような現状に対応し、「やさしい日本語」²⁸⁾をメインに表記した事例である。こうしたことは、高校で、うまくやれば中学校でも扱いうるだろう。言語景観から、移民ニューカマーを日本社会にどう受け入れるべきかという重要な問題を考えさせたい²⁹⁾。

(3) 外国人観光客 図 2 に示したような、路上の外国人観光客向け日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングルの 4 言語標識は一般化している。一方で、図 5 のような日本語と英語のみの表示も数多い。長崎市内をみると 4 言語表示はあまり多くない。観光用の街路標識の他には、管見では長崎駅や市立図書館、原爆資料館などに限られ、長崎駅の改札内や路面電車の停留所は日英 2 言語である³⁰⁾。他の言語は、浜町商店街の看板にタイ語や中国語（繁体字）、聖徳寺に手書きのスペイン語が確認できたのみである。

中高生にこのような 4 言語表示と、2 言語表示のどちらが好ましいか問うと、4 言語という答えが多いだろう³¹⁾。確かに、多言語である方が多くの観光客の利便にかなうのは確かである。我々が近隣国を訪れると、日本語を含む多言語表示に出会うことは多い。ただし、多くは観光地のみで、むしろ例外的であることは強調しておく必要がある。「多文化共生」の観点から多言語（4 言語）が好ましいという意見も出るかもしれないが、問題は観光客であり、多文化共生は関係ない。より多文化的で、国境を越えた観光もさかんなヨーロッパ諸国において、街頭の表示は自国語の他には英語があればよい方であることも想起したい。

日本において、あらゆるところで 4 言語表示が好ましいような風潮は、実は行き過ぎであるともいえる。鉄道会社をみると、東急、相鉄、京急、南海が全駅の駅名標などの表示を 4 言語にしている。一方、JR 東海は東海道新幹線停車駅を含む駅構内の掲示に日英の 2 言語しか用いておらず、やや批判めいて報道された³²⁾。筆者は東急や南海の大半の駅よりも新幹線駅にこそ 4 言語があって良いと思うが、こうした交通機関における多言語表示の是非を授業で取り上げることに意義があろう。

2018 年現在、日本あるいは九州を訪れる観光客数が多いのは中国、韓国であり、4 言語の多言語表示はそれと合致している。ただし、国・地域別観光客数 3 位・4 位の台湾・香港（繁体字中国語）は無視してよいのかといったことを考えさせてもよい。しかし、看板などの表示言語を増やすことは限界



図 5 日本語・英語による駅名標
長崎市内，2018 年撮影。



図6 如己堂などの案内表示
長崎市内，2018年撮影。



図7 唐人屋敷跡の案内表示
長崎市内，2015年撮影。

があり，現実的ではない。急速に普及したスマートフォン，そして地図アプリや案内アプリなどによって，現地の看板，標示板といったメディアは絶対ではなくなっていることも含め，考えさせられるテーマである。

さらに，観光の多言語表示における問題を指摘するなら，翻訳の問題がある³³⁾。これらは語学の問題という面が強いが，インバウンド・ツーリズムをどう発展させるかという点に焦点を当てるならば，社会科的でもあろう。

図6・7に，長崎市内の如己堂と唐人屋敷跡のいずれも4言語表示の案内板を示した。英語をみると，如己堂は固有名詞として訳さない一方で，唐人屋敷は一般名詞として訳していることがわかる。それに対して，中国語（ハングルも）は双方とも固有名詞扱いである。

‘Former Chinese Settlement’のような意識に対しては，英語が得意でない日本人との意思疎通が困難になることが指摘されている³⁴⁾。また長崎市の公式観光サイトでは「如己堂」は‘Nagai Takashi Memorial Museum (Nyokodo)’と表記されており³⁵⁾，訳（説明）の仕方の違いで混乱を招きそうだ。逆に，中国語のように固有名詞である「如己堂」「唐人屋敷」をそのまま表記するだけでは，それらが何か知らない人には何か全く分からないことになる。実はこれは日本語話者でも同じで，「如己堂」「唐人屋敷」よりも，意識してある‘Nagai Takashi Memorial Museum (Nyokodo)’や‘Former Chinese Settlement’の方がわかりやすい³⁶⁾。

スマートフォンやWifiが普及しても，どう訳して非日本語話者に伝えるのがわかりやすいかという問題は残る。また，近い将来に現地標識が無用になるとまでは思えない。考えさせたい問題である。

(4) 言語的少数派アイヌ 中学歴史教科書にも取り上げられるアイヌは，日本国内の先住エスニック・グループとして唯一扱われる事例である。沖縄をエスニック・グループとして表記する教科書は管見の限り1例しかなく³⁷⁾，取り上げるとは躊躇されるし，ウィルタやニヴフ，小笠原欧米系はよりマイナーである。

図8にはドイツにおける少数言語のあり方を示す言語景観を示した。説明すれ

ば高校生でもわかるものであり，アイヌをこれと比較して考えてみたい。

この写真には，ドイツ語の地名表記である 'Cottbus' に ソルブ語の 'Chošebuz' が併記されている。このコトブス中央駅では「出口」といった実用的な案内ではなく，地名にのみソルブ語が併記されており，少数言語保護を象徴的に示す，ホスト社会側（国家，地方政府）のアピールであるといえる。

「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（2007年）³⁸⁾では，第11条第1項において「先住民族は，その文化的な伝統及び慣習を実践し，及び再活性化させる権利を有する」とされ，第13条第1項で「先住民族は，その歴史，言語，口承伝統，哲学，表記方法及び文学を再活性化し，使用し，発展させ，及び未来の世代に伝達し，並びに共同体，場所及び人にその固有の名称を付し，及び継続的に使用する権利を有する」と言語に関する権利を認めている。そして，同第2項において，国家は「効果的な措置をとらなければならない」とされている。

上記国際連合宣言や，ドイツにおけるソルブ人・ソルブ語の状況から，先住民族としてのアイヌにどのような言語的な権利があるか，そしてそれは言語景観としてどのように表されうるかということを考えさせたい。さらに，そうした先住民族としての権利の可視化は，上記コトブス中央駅の場合はきわめて象徴的なレベルであるように，いろいろなレベルでありうるということも考えさせられる。

IV おわりに

本稿では，言語景観研究がさかんになか，地理を中心とした中高社会科系教科書で，㊦文字の例示，㊦複数公用語・少数派言語など言語的多様性，㊦新しい移民の存在，㊦国際観光客の増加，㊦文化・経済的グローバル化といったテーマに分類できる様々な言語景観が取り扱われていること，そのうち㊦と㊦は近年になって取り上げられるようになったことを明らかにした。その上で，移民ニューカマー，国際観光客，先住民族アイヌの3つのテーマについて，中高社会科系教科・科目において，より深く授業を展開しうることを試みに論じた。

言語景観から現実の言語使用のありようを読み取り，少数者のおかれた地位，ホスト社会のあり方を考えること，これらはきわめて社会科的な学びであり，地理学的にもより注目されるべきであろう。



図8 ドイツ語とソルブ語が併記された駅名標

ドイツ・コトブス中央駅，2008年撮影。

注

- 1) バックハウス, P. 「日本の多言語景観」(真田真司・庄司博史編『日本の多言語社会』岩波書店, 2005) 53 頁。
- 2) 庄司博史・バックハウス, P.・クレマス, F. 「日本の言語景観—西欧化, 国際化, そして多民族化」(庄司博史・バックハウス, P.・クレマス, F.編『日本の言語景観』三元社, 2009) 9 頁。
- 3) 磯野英治 「韓国における日本語の言語景観—各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性」(内山純蔵監修『世界の言語景観—日本の言語景観—景色のなかのことば』桂書房, 2011) 74-95 頁。同「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」『日本語研究』35, 2015, 193-200 頁。ロング, D. 「非母語話者からみた日本語の看板の語用論的問題—日本語教育における「言語景観」の応用」『人文学報(首都大)』488, 2014, 1-22 頁など。
- 4) 木下禮子 「「異」文化理解から「多」文化共生へ」(寺本潔・田部俊充・大西宏治編『地理が切り拓く「総合的な学習」』古今書院, 2002) 82-85 頁。
- 5) 細川遼太・藤本将人 「多文化世界を捉えさせる授業—社会科単元「言語景観から読み解く都市」の開発」『北海道教育大学紀要教育科学編』61-2, 2011, 193-205 頁。
- 6) 加賀美雅弘・荒井正剛編『景観写真で読み解く地理』古今書院, 2018。
- 7) 高校地理は 2009 年告示, 2013 年から実施の学習指導要領に基づく全ての教科書, 中学校社会は 2008 年告示, 2012 年実施の学習指導要領に基づく 4 社 3 分野の教科書で, 地理的分野を刊行していない出版社のものは含めていない。
- 8) 例えば, 加藤晴康ほか『世界史 A』東京書籍, 2015, 156 頁, 木村靖二ほか『詳説世界史 B』山川出版社, 2015, 353 頁。
- 9) 片平博文ほか『詳説地理 B』帝国書院, 2012, 277 頁, 山本正三ほか『新編詳説地理 B』二宮書店, 2015, 261 頁。
- 10) 笹山晴生ほか『中学社会歴史—未来をひらく』教育出版, 2012, 174 頁, 黒田日出男ほか『社会科中学生の歴史—日本の歩みと世界の動き』帝国書院, 2012, 179・213 頁, 尾藤正英ほか『新詳日本史 B』東京書籍, 2012, 229 頁など。
- 11) 佐々木毅ほか『現代社会』東京書籍, 2012, 194 頁, 加藤晴康ほか『世界史 A』東京書籍, 2015, 197 頁。
- 12) 山本正三ほか『現代世界のすがた—地理 A』二宮書店, 1998 (初版 1994), 63 頁。なお中村和郎ほか『社会科中学生の地理—世界のなかの日本最新版』帝国書院, 2002, 107 頁でも取り上げられている。
- 13) 矢田俊文ほか『地理 B』東京書籍, 1994, 112 頁, 藤原健蔵ほか『新地理 B』第一学習社, 1994, 口絵 3, 石井素介ほか『地理 A』教育出版, 1994, 61 頁, 前掲 12) 二宮版地理 A, 112 頁。
- 14) 佐藤久ほか『新詳地理 B—最新版』帝国書院, 1995, 141 頁。
- 15) 山本茂ほか『現代地理 B』清水書院, 1994, 74 頁。
- 16) 坂本英夫ほか『高校生の世界地理 A—最新版』帝国書院, 1994, 93 頁。
- 17) 山本茂ほか『新地理 A』清水書院, 1998 (初版 1994), 71 頁。
- 18) 矢田俊文ほか『環境と人間—地理 A』東京書籍, 1997, 42 頁, 前掲 13) 東書版地理 B, 30 頁, 前掲 16) 帝国版地理 B, 25 頁。
- 19) 前掲 18) 東書版地理 A, 42 頁。
- 20) 前掲 13) 第一版地理 B, 109 頁。
- 21) 前掲 15) 清水版地理 B, 188 頁, 前掲 17) 清水版地理 A, 103 頁。
- 22) 山本茂ほか『高等学校現代地理 A』清水書院, 2003, 60・74 頁, 前掲 12) 帝国版中学地理, 195 頁。
- 23) 坂本英夫ほか『高校生の世界地理 A—初訂版』帝国書院, 1998, 101 頁。
- 24) 前掲 12) 帝国版中学地理, 88 頁。なお, この 4 言語表示は, 言語の順と, 中国語が繁体字である点で, 現在からみれば珍しい。
- 25) 山本正三ほか『詳説地理 B』二宮書店, 1998 (初版 1994), 石井素介ほか『地理 B』教育出版, 1994。教出版には南アフリカのアパルトヘイトに関連して英語・アフリカーンス語の看板の写真があるが, 2 言語であることを読みとらせているわけではない。
- 26) 庄司博史 「多言語化と言語景観—言語景観からなにがみえるか」(庄司博史・バックハウス, P.・クレマス, F.編『日本の言語景観』三元社, 2009) 26-31 頁。
- 27) 様々な調査で英語よりも日本語ができるとの回答が多い。本田弘之・岩田一成・倉林秀男『街の公共サインを点検する—外国人にはどう見えるか』大修館書店, 2017, 30-31 頁。
- 28) 庵 功雄『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波書店, 2016 など。

- 29) 災害時の対応の重要性は、移民ニューカマーだけでなく、部分的には観光客にも当てはまる。災害時はスマホも使えず、一部の観光客も避難所に避難せざるを得ないためである。
- 30) なお、路面電車の車内、空港バスの車内は4言語で表示されている。
- 31) 筆者は長崎大学で担当している「日本語と社会」の講義でこれに類したことを受講生に問うているが、圧倒的とまではいかないまでも4言語を支持する者が多い。
- 32) 「多言語表示乗り遅れ？ JR 東海，英語のみ」中日新聞 2014 年 5 月 6 日付。
- 33) 温泉の訳は'onsen', 'spa', 'hot spring'のいずれが適切か，'…Jinja Shrine'と重ねるべきか，ローマ字表記に長音記号を使うべきかなど，様々なことが議論の対象となっている。
- 34) 前掲 27) 46-48 頁。他にも，長崎バスのバス停の一部は英語・ローマ字でも表記されているが，「神学校前」を訳さない一方で「山里小学校前」は'…ELM. School'と訳している。
- 35) 「長崎市公式観光サイトあっと!ながさき」<https://www.at-nagasaki.jp/> (2019 年 1 月 23 日検索)。なお，他にも'Urakami Highway'と'Urakami Road' (浦上街道)，「原子爆弾」と「原子弾」など，標識や案内板によって訳が違うものがある。
- 36) 私見では'Nagai Takashi Memorial Museum (Nyokodo)'や'Former Chinese Settlement (Tojin-Yashiki Ato)'のように原語を併記するのが通じやすいと思う。
- 37) モーリス＝スズキ，T. 「多民族・多文化の日本」(三宅明正ほか『日本史 A 現代からの歴史』東京書籍，2015) 61 頁。
- 38) 「先住民族の権利に関する国際連合宣言(翻訳 北海道大学アイヌ・先住民研究センター)」https://www.cais.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2012/03/indigenous_people_rights.pdf (2019 年 1 月 23 日検索)。

